

大江戸の大地を揺るがす地震鯨

幕末の江戸は人口 100 万人をこえる当時の大都市でした。

1855（安政 2）年に大都市江戸を襲った安政江戸地震では、地震と火災によって大きな被害が発生しました。

今回の展示では、地震研究所図書室で所蔵している史料の中から、安政江戸地震後の人々の様子を描いた書物や、地震後に出回った鯨絵を紹介します。



鯨絵

『鯨をおさえる恵比寿』

当時地震は、地中にある鯨が動いて起こると考えられていました。これ以上地震を起こさないように、恵比寿が瓢箪（ひょうたん）で鯨をおさえようとしています。

家屋が無事であった町人たちも、打ち続く余震を怖れて、屋外へ避難していました。屋外へ避難している老夫婦のもとへ、息子が寝具を運んでいます。



「孝子父母を護りて資材を忘る」
（『安政見聞録』より）

地震後、家屋が倒壊・焼失した町人たちは、屋外に仮屋を作って避難していました。食べ物に困っていた町人たちに、武士が握り飯を配っています。



「士人飢民を憐れみて街頭に握り飯を施す」
（『安政見聞録』より）